

## 「えひめ教育の日」推進大会・推進フェスティバル 教育長祝辞

令和4年10月23日（日）  
久万高原町産業文化会館

「えひめ教育の日」が、制定15周年の節目を迎え、推進大会並びに推進フェスティバルが盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

推進会議の皆様方には、日頃より、「えひめ教育の日」の普及・定着はもとより、本県教育の振興に格別の御尽力を賜り、厚くお礼を申し上げますとともに、本大会を共催いただいております一般社団法人「えひめ若年人材育成推進機構」の皆様、そして開催地の久万高原町教育委員会並びに学校関係者の皆様にも深く感謝申し上げます。

さて、コロナ禍も3年近くになり、感染力の強い変異株の出現が相次ぐ中、学校現場では、感染回避行動の定着に加え、地域ごとの感染状況や感染リスクを踏まえた、的を絞った対策をすることにより、感染予防を図りながらも、通常の学校生活を取り戻すよう努めているところです。

特に、この夏「全国高等学校総合体育大会・四国大会」を滞りなく開催できましたことは、ウィズコロナ時代の取組みの好事例として、私どもにとっても大きな自信となりました。ここに至るまでの市町教育委員会や教育関係団体をはじめ皆様方の御尽力、温かい見守りに改めて感謝申し上げます。

県教育委員会では、今後とも、子どもたちにとって一度きりの学校生活を多彩で充実したものとするため、「やりたいこと、やらねばならないことをやりきる」との姿勢で、知恵と工夫を駆使しながら、最善を尽くして参ります。

また、コロナ禍を機に加速化したICT教育では、コンピュータ上でテストから採点・分析までを行うCBTシステムを、全国に先駆け本県独自に導入し、今年度から本格稼働させております。CBTでは、子どもたちの習熟度に応じた学習の促進や、採点等に要する教員の負担軽減など教育現場でも高く評価されており、今後とも、こうしたデジタル学習と、対面での体験や交流等を適切に組み合わせたハイブリッド教育を積極的に推進して参ります。

さらに、今年7月には、県立学校振興計画案を公表させていただきました。

この計画案は、少子化の進行や、グローバル化・情報化などの環境の変化を背景に、県立高校の再編と魅力化を図るもので、地域の皆様と2年にわたり協議を重ね、取りまとめたものであります。

計画案では、子どもたちに多彩で魅力的な選択肢を提供するよう「情報・国際・スポーツ等の新学科を設置」とともに、「学科横断的学習の展開」や「進路指導の充実」に取り組むほか、交通困難地域や、地域とビジョンを共有し将来の発展が期待できる場合は、小規模校の存続を図ることとしております。

高校は、子どもたちが卒業後、成人として社会に出るための準備を整える場所であり、県教育委員会としては、県立高校が、これから進学する子どもたちにとって、夢や進路を実現するための魅力ある学び舎とするために、強い使命感をもって計画を推進して参りたいと考えております。

そして、こうした様々な取組みを支え、基盤となるものが「学校や家庭、地域、企業等による温かい見守りと成長への支援」であります。社会・経済環境がいかに変化しようとも、子どもたちが健やかに逞しく育つよう、皆様方におかれましても、「えひめ教育の日」が目指す「社会総がかりでの教育」の推進に引き続き御理解・御支援賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、本日の推進大会・推進フェスティバルが実り多いものとなり、県民一人ひとりが教育について考え、行動する契機となりますことを強く期待いたしますとともに、推進会議のますますの御発展と、御出席の皆様方の御健勝・御多幸を心から祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。